

2025.01.23

国道 53 号「京橋」耐震補強工事の 現場見学会を開催しました

【趣 旨】

施工会社が設計図書に基づき現場で施工を進めようとする際、設計と現場の相違により設計変更が必要となる場合がある。この原因は、

- (1) 既存橋梁の出来形寸法が、建設された当時の設計図面通りでない
- (2) 建設後に補修・補強が施され、その記録がないため設計に反映されない
- (3) 3次元的な構造細目が設計図で表現できてないため、部材が干渉する
- (4) 上記のほか、特に仮設計画に関して事前確認や現地調査が不十分

などが考えられる。これら設計変更により大幅な数量変更となる場合、受発注者とも工期や予算面で大きな負担となる。これをできる限り少なくするためには、コンサルや施工会社に設計施工に関する技術的知識と経験が求められる。

今回の現場見学会では、そのような視点に立った施工会社から見た知見を、やまこう建設の吉本監理技術者から説明していただいた。

【工 事 概 要】

- ◆日 時 : 2025 年 1 月 23 日 (木) 13 : 30-15 : 00
- ◆場 所 : 八頭郡智頭町智頭 633-4
- ◆参加者数 : 7 社、18 名

- ・工 事 名 : 令和 5 年度鳥取河川国道事務所管内橋梁耐震補強第 2 工事
- ・工 期 : 令和 6 年 3 月 15 日～令和 7 年 2 月 28 日
- ・工事概要 : 水平分担構造工 (A1 : 4 箇所、P1 : 10 箇所、A2 : 5 箇所)
落橋防止装置工 (P1 : 8 箇所)
橋座拡幅工 (P1 : 1 式)
仮設工 1 式
- ・発 注 者 : 国土交通省 鳥取河川国道事務所
- ・施 工 者 : やまこう建設 株式会社

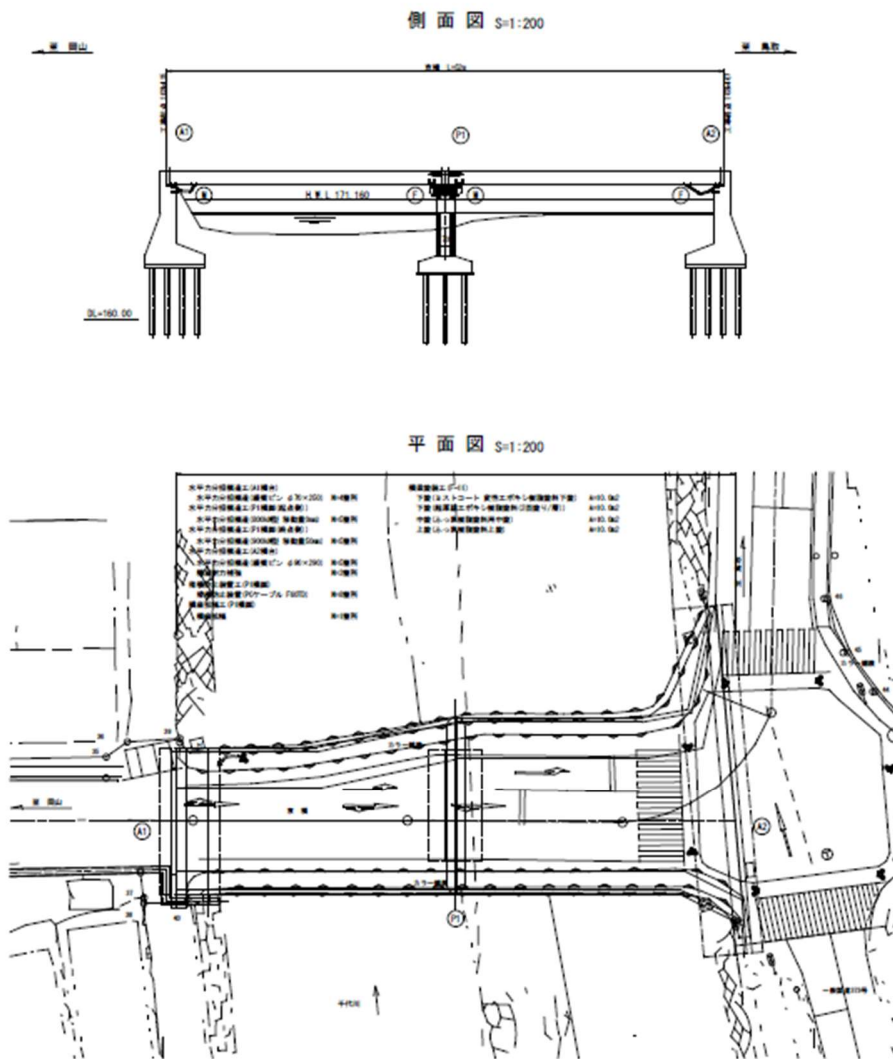
【見学会の概要】

当工事は、国道 53 号八頭郡智頭町山根地内の、京橋の橋梁耐震補強を行う工事である。現場では、水平分担構造・落橋防止装置工の取付や吊足場を見学した。

また、設計と現場との相違とその対応、吊足場では設計に見込まれていない通路の設置等について、これまで数多くの橋梁耐震補強工事を担当されてきた「やまこう建設 (株)」現場代理人の吉本氏より、工事概要、設計図面と現場との不一致とその対策について説明して頂いた。

設計図面と現場の不一致を一つでも見逃すと、手戻りとなり、費用面や工期面の影響は大きいことから、この度の現場見学会は、参加者にとってとても有意義で、参考になるものであった。

補強全体一般図



【見学会の状況】



鳥取県コンクリート診断士会 鶴石会長挨拶



やまこう建設（株） 現場代理人 吉本氏から説明



工事概要等の説明の様子



現場見学の様子



現場見学の様子



現場見学の様子



現場見学の様子



閉会の挨拶 鳥取県コンクリート診断士会 植木副会長

県コンクリート診断士会

設計図面と現場の不一致
施工者目線で対処法学ぶ



現場は国道53号京

橋耐震補強（施工やまこう建設）。現場

代理人の吉本浩一さんが案内役を務め、

工事概要を説明した。吉本さんは現場

の状況について、これまで補修・補強し

た記録が残っていないため設計に反映でき

ていない、3次元的な構造細目が設計

図に表現されておらず、部材が干渉するといった

事例を紹介。質疑応答では、参加

者から「設計変更費用はどうなっているのか」

「冬場の品質確保に向けた工夫は何をやっているのか」といった質問

が出され、活発な意見が交わされた。

吉本さんは「図面と現場の不一致を見逃せば手

戻りになり、費用、工期への影響は大きい」と説明。受注後、細部にわた

る調査が不可欠とし、「必要なのは数多くの現場経験と熟練した技術」と訴えた。

県コンクリート診断士会（鶴石健治会長）の勉強会がこのほど、智頭町内の橋梁耐震補強工事現場（＝写真）であった。設計図面と現場に相違があればどう対処すべきか、会員20人が施工者側の視点に立って知見を深めた。